

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01945

研究課題名（和文）サプライヤー間の水平的関係がバイヤーとの垂直的取引関係に及ぼす効果の実証研究

研究課題名（英文）The effect of horizontal supplier-supplier relationship on vertical buyer-supplier transaction

研究代表者

小阪 玄次郎（Kosaka, Genjiro）

上智大学・経済学部・教授

研究者番号：90582297

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「企業間の取引関係において、サプライヤー間関係のありかたが、バイヤーとの取引関係にどのような影響を及ぼしているのか」を明らかにすることを目的として出発した。鍵とした概念はサプライチェーンにおけるレジリエンスであり、日本の自動車産業の自動車メーカー・部品サプライヤー間の取引関係のデータを使用した定量的な分析を行った。本研究では、レジリエンスを生み出す先行要因として、サプライヤー間、およびバイヤー・サプライヤー間での協調・競争が併存する緊張関係が寄与することを定量的な分析を通じて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、近年、欧米の学術誌で注目されているサプライチェーンにおけるレジリエンスに対して、これまで日本の自動車産業研究が分析対象としてきた協調・競争が併存する取引関係のあり方が先行要因となりうることを定量的に示し、両者を架橋したことである。また、社会的意義としては、経済危機や自然災害、疫病、戦争といった外的なショックによってサプライチェーンが寸断されることがときに見られる今日において、それをすばやく復旧あるいは元よりも良い状態にするための方策に示唆を提供するものである。

研究成果の概要（英文）：This study commenced with the aim of elucidating how the relationships between suppliers affect their transactions with buyers in interfirm relationships. The key concept was resilience in the supply chain, and a quantitative analysis was conducted using data on the transaction relationships between automobile manufacturers and parts suppliers in the Japanese automotive industry. Through this quantitative analysis, the study revealed that the coexistence of cooperation and competition between suppliers, as well as between buyers and suppliers, contributes to the generation of resilience as antecedent factors.

研究分野：経営学

キーワード：サプライチェーン・マネジメント レジリエンス 自動車産業 組織間関係 組織学習 新製品開発
経営学 経営組織

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、「企業間の取引関係において、サプライヤー間関係のあり方が、バイヤーとの垂直的取引関係にどのような影響を及ぼしているのか」を明らかにすることを当初の意図として出発した。先行研究では、製品開発成果を高めるために、バイヤー・サプライヤーの間での協業を促進するさまざまな経営施策について議論がなされてきた。その一つとして注目されているのが、しばしば競争関係にあるサプライヤー間に水平的ネットワークを組織化し、相互学習を促す場を設けることである。しかしこれまでの研究は、水平的ネットワークを通じて得られたサプライヤーの学習効果が、バイヤーとの垂直的取引関係にどのように影響するのかを定量的に明らかにしてはこなかった。この点を明らかにするために、本研究は、日本の自動車産業を対象として、定量的な実証研究を行うことを企図した。

2. 研究の目的

本研究は、サプライヤー間関係のあり方が、バイヤー・サプライヤー間関係に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。もう少し具体的には、サプライヤー間の情報交換や相互学習を促す場があることによって、バイヤーとの取引関係の強化や、新たなバイヤーの獲得につながっているのかどうかを本研究では検証した。

この問いは、理論的には、リレーショナル・ビューと呼ばれる視座に根差したものである。リレーショナル・ビューとは、企業の競争力を規定する要因として、取引関係にある企業間の関係のあり方に注目する考え方である。企業の競争優位を規定する要因をめぐる議論は、伝統的に、ポジショニング・ビューとリソース・ベースト・ビューに大別されてきた。前者は企業外部の競争環境の厳しさに、後者は企業固有の内部資源から生まれる強みに注目し、企業の競争優位を分析するものであった。これらが基本的には単一企業の状況に焦点を当てるものであったのに対し、リレーショナル・ビューの新規性は、企業間関係に注目した点にある。そこでの分析の焦点は、特定のバイヤー・サプライヤー関係の間でのみ発揮される、関係特殊な組織能力をいかにして構築できるのか、であった。

リレーショナル・ビューに基づいた研究は、典型的には、自動車産業を分析対象として国内外で積み重ねられてきた。バイヤー(自動車メーカー)とサプライヤー(自動車部品サプライヤー)との取引関係が長期継続することが、相互の協業を円滑にするのに大きく寄与している。また、バイヤーが能動的なサプライヤーの能力開発に関与していることも明らかにされてきた。これらは日本の自動車産業における系列取引において顕著にみられる特徴であり、その強みが近年でも依然として持続していることは、申請者他の研究で明らかにしたところである。こうしたバイヤー・サプライヤー間の能力構築にかかわる議論は、自動車産業ばかりでなく、建機産業や、IT産業を対象にした研究でも積み重ねられている。

サプライヤーの能力構築に向けたさまざまな経営手法のなかでも、バイヤー・サプライヤー関係ばかりでなく、サプライヤー間関係についても近年注目されるようになってきている。自動車メーカーに部品を納入するサプライヤー同士は、しばしば競争関係にある。しかし、サプライヤー間での情報交換や、相互学習する場を設けることで、結果として、最終製品の開発成果の向上につながる、とされる。

しかしながら、こうした研究例の多くは、定性的調査にもとづくものであった。それらは自動車産業における実態把握に非常に有用であった反面、バイヤーやサプライヤーのパフォーマンスにいかなる影響を及ぼしているのかを明示的に検証した研究は多くなかった。とりわけ、サプライヤー間の水平関係が、バイヤーとの垂直的取引関係にどのように影響するのかを定量的に明らかにした研究はいまだ存在していないように思われる。

そこで本研究は、サプライヤーの間の水平関係と、バイヤー・サプライヤーの取引関係に関する二次データを用いた実証研究を行うこととした。

3. 研究の方法

以上の目的に即して、本研究では、日本の自動車産業を対象とした分析を行った。書誌情報の収集を中心にを行い、付随的に、自動車産業のバイヤー、サプライヤー双方を対象としたインタビュー調査を行った。

書誌情報を通じて、サプライヤー間関係、および、バイヤー・サプライヤー関係についての定量的なデータベースを構築した。それを使用し、統計分析によって上述の関係を検証することを試みた。インタビュー調査は、統計分析に先立つ仮説構築のために有用であった。理論的検討と、インタビュー調査から得られた知見をふまえて、本研究では、結果変数として、取引関係の一側面であるレジリエンスにとくに焦点を当てることとした。企業間の取引関係におけるレジリエンスとは、外的なショックを被った後でサプライチェーンをすばやく復旧あるいは元よりも良い状態にすることを指す。

4．研究成果

本研究の成果としては、大別して2つがある。

第一に、初期的な成果として、サプライヤー間の相互学習の場への新たな参加が、バイヤーとの新しい取引関係の構築に寄与するばかりでなく、既存の取引関係にもプラスの影響を与えることが明らかとなった。

第二に、レジリエンスをもたらす先行要因として、先行研究をあらためて検討すると、バイヤー・サプライヤー間の情報共有や信頼、資源配分の柔軟性、適時の計画・実行能力、といった要素があると考えられてきた。これらの要素は、自動車産業のサプライチェーン・マネジメントの先行研究においては、バイヤー・サプライヤー間の協調・競争が併存する緊張関係の中で形成される、と考えられてきた。こうした知見をふまえ、協調・競争が併存する取引関係が、レジリエンスに寄与する、という関係を定量的に検証することを目標に定め、分析を行った。結果としては、協調・競争の併存する企業間関係は、外的ショックを受けた際のレジリエンスにプラスの影響を与えることが明らかとなった。

これらの結果は、いずれも、サプライヤー間関係、および、バイヤー・サプライヤー関係のあり方が、相互の取引関係や、関係のレジリエンスに与える影響を示すものである。本研究から得られた知見は自動車産業にかかわるものであるが、追加的な書誌情報の分析やインタビュー調査から、こうした傾向は必ずしも自動車産業のみに見られるのではなく、携帯電話・スマートフォンのような電機産業においても似た傾向が見られる可能性が示唆された。

学術的な意義としては、これらの成果は、垂直的な取引関係において形成される関係特殊な能力構築に主眼を置きがちであったリレーショナル・ビューの理論に対して、水平的関係のもつ効果についての知見を追加したことに意義があると考えられる。また、サプライチェーンのレジリエンスに関する議論に対して、バイヤー・サプライヤー間で協調的な関係があるのみでは十分でなく、競争的な関係も併存している状況であるほうがより望ましいということを提示した。

このほか、実務的な示唆を見出すこともできる。サプライヤー側にとっては、他のサプライヤーとのかかわり、および、取引関係の多角化のもっている学習面での意義を本研究は示唆している。また、自動車メーカー側にとっても、サプライヤー間の水平的関係の場を組織化していることの意義を確認させるものだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Genjiro Kosaka	4. 巻 34
2. 論文標題 Realising partial mirroring in a component specialised firm: evidence from the hard disk drive industry	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Technology Analysis & Strategic Management	6. 最初と最後の頁 989-1003
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09537325.2021.1938999	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Genjiro Kosaka	4. 巻 2023
2. 論文標題 Resilience, Keiretsu and Dependence on Buyers: Evidence from the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Academy of Management Proceedings	6. 最初と最後の頁 19209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5465/AMPROC.2023.19209abstract	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Genjiro Kosaka
2. 発表標題 Balancing cooperation-competition tensions and resilience in supply networks: Evidence from the automobile industry in the wake of the Fukushima disaster
3. 学会等名 Research Seminar at Vrije Universiteit Amsterdam (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Genjiro Kosaka
2. 発表標題 Coopetition and Learning in Supplier Associations: Evidence from the Japanese Automobile Industry
3. 学会等名 Euro-Asia Management Studies Association 38th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Genjiro Kosaka
2. 発表標題 Balancing cooperation-competition tensions and resilience in supply networks: Evidence from the automobile industry in the wake of the Fukushima disaster
3. 学会等名 The 38th European Group for Organizational Studies Colloquium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Genjiro Kosaka
2. 発表標題 Supply Chain Resilience in Vertical Keiretsu: Evidence from the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 The 41th Strategic Management Society Annual International Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Genjiro Kosaka
2. 発表標題 Do supplier associations foster transactional relationships between automakers and suppliers? Evidence from Japan
3. 学会等名 Gerpisa 2020 International Colloquium (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Genjiro Kosaka
2. 発表標題 Resilience, Keiretsu and Dependence on Buyers: Evidence from the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 The 83th Annual Meeting of the Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------